



Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.1 のリリースノート

初版：2019年11月25日

変更日：2020年1月17日

このドキュメントでは、Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.1 の新機能、システム要件、ライセンス情報、および警告について説明します。このドキュメントは[警告 \(5 ページ\)](#) に記載されているドキュメントと併せて使用してください。

目次

- [はじめに \(2 ページ\)](#)
- [システム要件 \(2 ページ\)](#)
- [ライセンス情報 \(3 ページ\)](#)
- [新機能と拡張機能 \(4 ページ\)](#)
- [新規および変更された CLI コマンド \(5 ページ\)](#)
- [制限事項 \(5 ページ\)](#)
- [警告 \(5 ページ\)](#)
- [Cisco Unified SIP Proxy 10.1 への移行 \(6 ページ\)](#)
- [関連資料 \(9 ページ\)](#)
- [マニュアルの入手とサービス リクエストの送信 \(10 ページ\)](#)



はじめに

Cisco Unified SIP Proxy は、集中的ルーティングと SIP 信号正規化を行う、高可用性な Session Initiation Protocol (SIP) サーバです。呼制御ドメイン間の要求を転送することにより、Cisco Unified SIP Proxy は企業内およびサービス プロバイダー ネットワーク内のルーティング セッションの手段を提供します。Cisco Unified SIP Proxy SIP トランク集約、名前解決、ルーティング、ロード バランシング、スケーラビリティおよび高可用性などの複数の機能を提供します。

Cisco Unified SIP Proxy 10.1 は、オープン仮想アプライアンス (OVA) として提供され、Cisco UCS プラットフォーム上に仮想マシンとしてインストールできます。Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 をインストールするための仮想マシン要件の詳細については、「[Cisco Unified SIP Proxy 10.1 の仮想マシン要件 \(2 ページ\)](#)」を参照してください。Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 は、SNMP を介した CISCO-USP-MIB をサポートしています。

システム要件

- [Cisco Unified SIP Proxy 10.1 の仮想マシン要件 \(2 ページ\)](#)
- [ソフトウェア バージョンの確認 \(3 ページ\)](#)
- [Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.1 のファイル パッケージ \(3 ページ\)](#)

Cisco Unified SIP Proxy 10.1 の仮想マシン要件

Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.1 ソフトウェアは OVA としてパッケージ化されており、VMware ESXi 5.5 以降が必要です。Table 1 は仮想化された Cisco Unified SIP Proxy のハードウェア推奨事項に関する情報です。展開と設定の詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 インストレーション ガイド](#)』を参照してください。

Table 1 UCS プラットフォームの仮想マシンの要件

CPS	60 CPS	100 CPS	200 CPS	300 CPS	400 CPS
vCPU	1	2	4	4	4
RAM	4 GB	4 GB	4 GB	4 GB	4 GB
ディスク	80 GB	80 GB	80 GB	80 GB	80 GB



注 CPU 速度は 2.99 GHz 以上です。

Table 2 低速 Cisco UCS および Cisco UCS (E) プラットフォームの仮想マシンの要件

CPS	40 CPS	100 CPS	200 CPS	300 CPS	400 CPS
vCPU	1	2	4	6	6
RAM	4 GB	4 GB	4 GB	4 GB	4 GB
ディスク	80 GB	80 GB	80 GB	80 GB	80 GB



注 CPU 速度は 2.99 GHz 未満です。



注意 デフォルトのログ ファイル サイズの変更は Cisco Unified SIP Proxy のパフォーマンスに影響します。



注意 ハイパーバイザ上で実行されている仮想マシンによるハードウェアのオーバーサブスクリプションはサポートされません。

ソフトウェアバージョンの確認

ソフトウェアのバージョンと使用ライセンスを確認するには、次の手順を実行します。

- Step 1** 次のコマンドを入力して、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアのバージョンを表示します。
`show software versions`
- Step 2** 次のコマンドを入力して、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアのライセンスを表示します。
`show license smart summary`

Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.1 のファイルパッケージ

次の Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 パッケージを使用できます。

- `cusp-k9.vmw.10.1.0.ova`

ライセンス情報

- [Cisco スマート ソフトウェア ライセンス \(4 ページ\)](#)
- [オープン ソース ライセンス \(4 ページ\)](#)

Cisco スマート ソフトウェア ライセンス

Cisco スマート ソフトウェア ライセンスは、Cisco ソフトウェア ライセンスを簡単かつ迅速に適用および管理できる標準ライセンス プラットフォームです。Cisco スマート ソフトウェア ライセンスを使用すれば、ソフトウェア ライセンスのプールからネットワーク全体でライセンスを柔軟に自動で適用できます。購入してネットワーク内で適用したライセンスを可視化することもできます。Cisco スマート ソフトウェア ライセンスにより、プロダクト アクティベーション キー (PAK) が不要になり、ライセンスのアクティベーションと登録にかかる時間が減少します。

GUI と CLI を使用したスマート ライセンスの詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 GUI コンフィグレーション ガイド](#)』および『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 CLI コンフィグレーション ガイド](#)』を参照してください。

オープン ソース ライセンス

Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 用に作成されたソフトウェアのコンポーネントの一部は、オープン ソース ライセンスまたは商用ライセンスに従って提供されています。これらのコンポーネントおよび関連する著作権に関する記述は、次の場所にあります。

<https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/open-source-documentation-responsive.html>。

新機能と拡張機能

Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 の新機能と拡張機能

Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.1 では、次の機能と拡張機能が導入されています。

- HTTPS は、デフォルトでは有効になっています。HTTPS を有効にするために、暗号キーを手動で生成し、Web セッション セキュリティに渡す必要はありません。ただし、外部で生成した署名付き証明書をインポートし、この新しいキー ラベルで Web セッションを更新できます。コマンド `no web session security keylabel labelname` は無効になっています。したがって、すべての HTTP リクエストは HTTPS にリダイレクトされます。最新の接続のみが保持され、残りの接続はログアウトされます。
- スマート エージェントは最新バージョン 3.0.9 にアップグレードされました。

新規および変更された CLI コマンド

Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 の新規および変更された CLI コマンド

Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 では、次のコマンドが変更されました。

- `no web session security keylabel labelname` : このコマンドは無効になっています。次の出力例は、コマンド `no web session security keylabel labelname` を実行しようとした時の Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 の動作を示しています。

```
se-10-1-0-1(config)#no web session security keylabel mainkey.ourcompany
!!! INFO: HTTPS is the only web interface option for this version of vCUSP.
Hence, no web session security is disabled.
```

制限事項

Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 には、次の制限があります。

- Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 では、HTTPS に対して TLS v1.2 のみがサポートされています。
- デフォルトのログ ファイル サイズの変更は Cisco Unified SIP Proxy のパフォーマンスに影響します。
- Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 では、Cisco UCS と Cisco UCS-E プラットフォームにおける Cisco Unified SIP Proxy 仮想マシンの高可用性はサポートされていません。
- Cisco Unified SIP Proxy Release 10.0 は、Linux 環境における VMware ツールのインストールやサードパーティ製ツールのインストールをサポートしていません。

警告

警告では、Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 での予期しない動作について説明します。Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 に関する警告を確認するには、<https://tools.cisco.com/bugsearch/search> のバグ検索ツールを使用します。

Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 では次の問題が解決されました。

警告	説明
CSCvp15923	クロスサイト スクリプティングとクロスサイト要求の偽造に対して脆弱な Web ページ
CSCvp23535	「ポート リスナー コマンド インジェクション」に起因する脆弱性
CSCvp26798	Struts コンポーネントで報告された CIAM アラート
CSCvp26933	バインド コンポーネントで報告された CIAM アラート
CSCvp36572	Apache tomcat コンポーネントで報告された CIAM アラート

警告	説明
CSCvq19505	TCP_SACK に関する unified-sip-proxy の評価
CSCvq39937	vCUSP 10 : IP エイリアシングのサブインターフェイスのサポートを追加
CSCvq03450	SysDB エラーまたはエンタイトルメント カウント チェックにより messages.log のフラッシュが発生する
CSCvr44664	CUSP : バインド コンポーネントでの Ciam アラート : CVE-2018-5741
CSCvr44771	CUSP : Open ssh コンポーネントでの Ciam アラート : CVE-2018-15473
CSCvo74000	スマート ライセンス設定データが消去され、「工場出荷時のデフォルトに戻す」が表示される
CSCvp24943	2 番目のインターフェイスから GUI ページにアクセスできない
CSCvp26833	CUSP での OpenSSL コンポーネントによる CIAM アラート
CSCvp43714	CUSP : callID をクリックしても GUI sip コール ログが表示されない
CSCvq23948	異なる IP アドレスを使用すると、Backup-Restore 後に CUSP が起動しない
CSCvq49803	サブインターフェイスが 10. X に存在する場合には show の出力を修正する必要がある
CSCvq55695	「インターフェイスを使用した ip ルートの設定」のオプションを CUSP 10. X に追加する必要がある

Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 に関する未解決の警告はありません。

Cisco Unified SIP Proxy 10.1 への移行

Cisco Unified SIP Proxy 8. x からの移行

既存の Cisco Unified SIP Proxy 8. x リリースから Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 に移行できます。ただし、移行時には次の制限があります。

- Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 を SRE モジュールにインストールすることはできません。Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 をインストールするには、VMWare ESXi プラットフォームが必要です。
- 既存の Cisco Unified SIP Proxy 8.x SWIFT ライセンスは、Cisco Unified SIP Proxy 10.1 に移行できません。シスコ パートナーまたはリセラーに現在のライセンス購入についてお問い合わせください。
- Cisco Unified SIP Proxy の 8.x リリースのバックアップ設定ファイルにはネットワーク関連の設定が含まれていません。Cisco SRE モジュールは起動時にホスト ルータから RBCP プロトコルで関連情報を取得します。Cisco Unified SIP Proxy 10.1 は RBCP 通信をサポートしていません。したがって、Cisco Unified SIP Proxy の 8.5.x リリースのバックアップ設定が Cisco Unified SIP Proxy 10.0 で復元された場合、リロード中に IP アドレス、サブネット マスク、およびゲートウェイの詳細を手動で入力して設定する必要があります。

- Cisco Unified SIP Proxy の 8.x リリースの設定には、複数のサブインターフェイスが含まれています。Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 のサブインターフェイス形式は、Cisco Unified SIP Proxy Release 8.x のサブインターフェイス形式とは異なります。これらのインターフェイスは、リロード完了後に手動で設定する必要があります。
- SRE モジュールの Cisco Unified SIP Proxy IP アドレスと Cisco Unified SIP Proxy 10.1 の IP アドレスが異なる場合に、リッスン ポイントは復元されません。リッスン ポイントを手動で設定する必要があります。

Cisco Unified SIP Proxy の既存のリリースから Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 に移行する手順は次のとおりです。

1. 既存の Cisco Unified SIP Proxy 8.x 設定のバックアップを作成します。詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy CLI Release 8.5 CLI コンフィグレーション ガイド](#)』を参照してください。
2. 仮想マシンに Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 OVA を展開します。詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy 10.1 インストール ガイド](#)』を参照してください。
3. スマート ライセンスを設定します。詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 GUI コンフィグレーション ガイド](#)』および『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 CLI コンフィグレーション ガイド](#)』を参照してください。
4. Cisco Unified SIP Proxy 10.1 で Cisco Unified SIP Proxy 8.x の設定バックアップを復元します。詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 CLI コンフィグレーション ガイド](#)』を参照してください。



注 設定の復元前にスマート ライセンスが設定されている場合は、スマート ライセンスの詳細がリセットされます。スマート ライセンスを有効にする前に、設定を復元することを推奨します。



注 Cisco Unified SIP Proxy Release 8.x から Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 に移行する際に、仮想マシンにサブインターフェイスまたは VLAN が定義されていない場合は、ESXi スイッチ側またはネットワーク側で VLAN 0 タグをパケットから削除します。そうしないと、VLAN 0 タグを含むパケットは削除されます。

Cisco Unified SIP Proxy 9.x からの移行

Cisco Unified SIP Proxy の既存の 9.x リリースから Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 にアップグレードできます。Cisco Unified SIP Proxy の既存のリリースから Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 に移行する手順は次のとおりです。

1. 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
2. 既存の Cisco Unified SIP Proxy 9.x 設定のバックアップを作成します。詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy Release 9.x CLI コンフィグレーション ガイド](#)』を参照してください。
3. 仮想マシンに Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 OVA を展開します。詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy 10.1 インストール ガイド](#)』を参照してください。
4. スマート ライセンスを設定します。詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 GUI コンフィグレーション ガイド](#)』および『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 CLI コンフィグレーション ガイド](#)』を参照してください。

5. Cisco Unified SIP Proxy 10.1 で Cisco Unified SIP Proxy 9.x の設定バックアップを復元します。詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 CLI コンフィグレーション ガイド](#)』を参照してください。
6. 復元したすべてのユーザのパスワードをリセットします (administrators、pfs-privusers、および pfs-readonly)。『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 GUI コンフィグレーション ガイド](#)』の「ユーザの設定」の章の「パスワードの変更」の項に記載されている手順に従います。
7. 復元したユーザを対応するグループに再度関連付けます。『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 GUI コンフィグレーション ガイド](#)』の「ユーザの設定」の章の「グループサブスクリプションの表示または変更」の項に記載されている手順に従います。

Cisco Unified SIP Proxy 10.0.x からの移行

Cisco Unified SIP Proxy の既存の 10.0.x リリースから Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 にアップグレードできます。Cisco Unified SIP Proxy の既存のリリースから Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 に移行する手順は次のとおりです。

1. 実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。
2. 既存の Cisco Unified SIP Proxy 10.0.x 設定のバックアップを作成します。詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.0 CLI コンフィグレーション ガイド](#)』を参照してください。
3. 仮想マシンに Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 OVA を展開します。詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy 10.1 インストール ガイド](#)』を参照してください。
4. スマート ライセンスを設定します。詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 GUI コンフィグレーション ガイド](#)』および『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 CLI コンフィグレーション ガイド](#)』を参照してください。
5. Cisco Unified SIP Proxy 10.1 で Cisco Unified SIP Proxy 10.0.x の設定バックアップを復元します。詳細については、『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 CLI コンフィグレーション ガイド](#)』を参照してください。
6. 復元したすべてのユーザのパスワードをリセットします (administrators、pfs-privusers、および pfs-readonly)。『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 GUI コンフィグレーション ガイド](#)』の「ユーザの設定」の章の「パスワードの変更」の項に記載されている手順に従います。
7. 復元したユーザを対応するグループに再度関連付けます。『[Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 GUI コンフィグレーション ガイド](#)』の「ユーザの設定」の章の「グループサブスクリプションの表示または変更」の項に記載されている手順に従います。

関連資料

Table 1-3 は Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 に関して提供しているマニュアルの一覧です。

Table 1-3 関連資料

ドキュメント	説明
『Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 インストール ガイド』	ライセンスを含めて、Cisco Unified SIP Proxy ソフトウェアのインストール方法が説明されています。リリース 1. x からリリース 10.1 への移行に関する情報もあります。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/prod_installation_guides_list.html
『Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 CLI コンフィギュレーション ガイド』	CLI から実行されるタスクの管理やトラブルシューティングなどの管理者情報が含まれています。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products_installation_and_configuration_guides_list.html
『CLI Command Reference for Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1』	Cisco Unified SIP Proxy リリース 10.1 固有のすべての CLI コマンドが説明されています。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/prod_command_reference_list.html
『Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1 GUI コンフィギュレーション ガイド』	GUI から実行されるタスクの管理やトラブルシューティングなどの管理者情報が含まれています。オンライン ヘルプがあります。 http://www.cisco.com/en/US/products/ps10475/products_installation_and_configuration_guides_list.html
『Commercial Open Source Information for Cisco Unified SIP Proxy Release 10.1』	このプロジェクトで使用されているすべてのオープン ソース ソフトウェアが記載されています。 https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/open-source-documentation-responsive.html

マニュアルの入手とサービス リクエストの送信

マニュアルの入手方法、サービス リクエストの送信、および追加情報の収集については、毎月更新される Cisco 製品マニュアルの 更新情報を以下の URL から参照してください。そこにはシスコの 新規および改訂版の技術文書の一覧も掲載されています。

https://www.cisco.com/c/ja_jp/td/whatsnew.html

Cisco 製品マニュアルの更新情報の Really Simple Syndication (RSS) フィードを登録できます。また、リーダー アプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

CCDE, CCENT, CCSI, Cisco Eos, Cisco Explorer, Cisco HealthPresence, Cisco IronPort, Cisco ログ, Cisco Nurse Connect, Cisco Pulse, Cisco SensorBase, Cisco StackPower, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, Cisco TrustSec, Cisco Unified Computing System, Cisco WebEx, DCE, Flip Channels, Flip for Good, Flip Mino, Flipshare (意匠), Flip Ultra, Flip Video, Flip Video (意匠), Instant Broadband, および Welcome to the Human Network は商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn, Cisco Capital, Cisco Capital (意匠), DesignCisco:Financed (図案), Cisco Store, Flip Gift Card, および One Million Acts of Green はサービス マークです。Access Registrar, Aironet, AllTouch, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, Cisco Certified Internetwork Expert ログ, Cisco IOS, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, Cisco Systems ログ, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, Continuum, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Explorer, Follow Me Browsing, GainMaker, iLYNX, IOS, iPhone, IronPort, IronPort ログ, Laser Link, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, PCNow, PIX, PowerKEY, PowerPanels, PowerTV, PowerTV (意匠), DesignPowerVu, Prisma, ProConnect, ROSA, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, WebEx, および WebEx ログは、米国およびその他の国におけるシスコまたはその関連会社の登録商標です。

Cisco および Cisco ログは、シスコ またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。シスコ の商標の一覧は、www.cisco.com/go/trademarks でご確認いただけます。掲載されている第三者の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用はシスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1721R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド表示出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Copyright © 2020, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.